

フレキシブルな学び

クラスから離れて、個別あるいはグループのあるいは自由進度の学びをして、あらためて教室に戻ってくる。そのようなフレキシブルな空間が中学校の学年の普通教室廻りにいなくていいのだろうか。

自由進度学習も素晴らしい取り組みではあるが、ある程度枠がある中で学習の自由度があった方がよい。逆に習得の差異が出てしまわないか課題も感じる。

自由進度学習も場所をいくつかの選択肢から選べるというその幅がすごく大事。この机で絶対学ばなければならないというわけではなく、自ら学びたいという意思を制約しないハード整備を考える必要がある。

普通教室の中だけでは、学びの広がりに限界があるが、オープンスペースの設置により、子どもの学習意欲もあがり、のびやかに学習活動ができるのではないか。

中学校こそ体系的な学習が進んでくるとすると、フレキシブルであったり多様性に対応できるような場が小学校以上に必要になってくる。

新JIS規格/教材増加への対応

中学校のJISが変わって机のサイズが一回り大きくなったときに、教室のサイズが今まで奥行7.5mだったのが8.1mから場合によっては8.4mぐらいに大きくなる必要がある。

収納

教材多くなることで机が大きくなるが、合わせて収納棚についても考えなければならぬ。

教室と廊下の間に壁があるが、そのあたりのスペースも場合によっては収納の棚等に使いえないかなと感じる。

数学や英語を集団を小さくわけてやっていくのは教室でないともやりにくいところがあるので、自分の机がある教室以外の教室がどれくらい必要になるのかはシミュレーションをしないとけない。

中学生が自由に学習活動を行う教室や廊下では狭く感じるので、中学校では学習ができるスペースを広く捉えることが必要である。

既存教室の利用

今までのようにちょっと狭い空間でギリギリで動くというよりは、既存の施設を生かして、自由に動きやすい空間で動いて授業を構築していくことがあるといいと思う。

小中一貫という考え方で小中の連携の在り方を模索していく動きや中学校の教科担任の仕組みを小学校にも入れていくというような動きも出てきており、小中学校の文化的な違いによりリセットするのではなく、連続的・段階的に接続させるものと考えている。

他市では図書室で今日は勉強しましょうなどの工夫を先生方がやられているので、今後施設が整備されるとより自由な学習が見えてくると思う。また空間が学びを支える役割もあると思う

ランチルームやパソコン室のようなあまり使わないが、少し広めの教室を学習の場として利用する授業が週に一度でもあると学びを楽しんでいる子供が増えると思う。

交流空間

高校生から、質問をしやすいように職員室を教室の近くに置いてほしいという声があり、交流やコミュニケーションが求められている。

中学生は、心理的な距離を求めていることから、先生と生徒の距離が離れている可能性がある。そこをどう構築していくかが一つの課題である。

教室と廊下と特別教室だけじゃなくて、交流したりくつろいだり、いろんなことで交わったり、空間をこれからの学校の中でどう構築していくかというのが一つの大事な観点。

カームダウンスペース

水回りについて、シンクや排水溝の汚れが非常に顕著だが、なかなか掃除ができていないので、掃除のしやすい素材にしてもらえるとよい。

現在壁に直接フックが取り付けられてあって体操着などをかけているが、水がぼたぼた落ちたりして非常に見苦しかったり、あるいは汚れてしまったりという状況がある。

補助教員が充足していないところでは、子ども一人一人に目が行き届かない場合がある。また子どもが一人でクールダウン室へ行くことに不安があるため、小さくていいので身近な距離にたくさんあるといい。

気持ちが高ぶってしまった子をクールダウン室に連れていくまでが一番大変なので、教室との距離が近い方がやりやすい。

オープンスペース

オープンスペースと連続して使えるような学年のオープンスペースやラーニングセンターなどのフレキシブルに対応できる空間は大事である。

今の時代は、児童生徒が1人1台端末を持ち、教員は大型ディスプレイで授業を行う。同一の空間にいなくても授業に参加できるということは、学校に求められる空間をかなり変容させるものである。

中学校は教科担任制であり、クラスによって異なる教科を受けていることもあるので、単に教室にオープンスペースを設置すれば多様な学びが追加されるというわけではない。

小学校では教室がクラスの数だけあるだけではなく、様々なフレキシブルな学習展開に対応できるオープンスペースがあったり、少人数教室があったりして、学年グループを形成しているという提案をしているが、中学校でそういうことは考えなくていいのだろうか。

避難所としての学校

学校が避難所になった時のことも考えると少し深めのシンクにさせていただいて、洗濯や洗い物もできるようなものを考えてもらえるとよい。

暑さ対策/気候変動への対応

日本の体育館は夏はかなり暑く、冬はかなり寒い。もし避難所になるとすると非常に過酷な環境になる。

暑さ対策は非常に頭を悩ませており、その中でもプールは維持管理に加えて暑すぎて入れないという問題がある。

敷地内の木やベンチを工夫することで、子供たちが暑い中でも外の空気に触れたりできると思う。施設の充実も大事だが、敷地も含めて考えていけるとよい。

これからの学校施設のあり方

本当のステークホルダーの子供たち、児童生徒のいろんな希望や意見、どんな思いを持っているかみたいなことをこの学校のこれからの日野市のプロジェクトにどう生かしていくのかぜひ考えておきたい。

将来的に、それから日野市の学校を具体的に考えるにあたって、日野市の中学校の生徒や小学校の生徒にも意見や感想を求めて、彼らの心象風景とかを建築の中に取り入れていくっていう工夫も必要かもしれない。

生徒の意見からは、相談しやすい職員室や通常学級⇄特別支援学級間など、学校の中で生徒が集まり、交流のできる空間が求められていた。

市内の小学校では通常学級と特別支援学級で積極的な交流活動が行われ、大切な時間になっている。交流スペースなど新たな空間が配置されることで、心的距離がもっと近づけるとよい。

一律一斉の学びではなく学び自体を子どもたちが築き上げていく。学年や学級という既存の枠を取り払い。その学びをどのようにハードが支えていくかがポイントであろう。